ネパール地震

「目の前のビル崩れた」

日本人の安否確認急ぐ

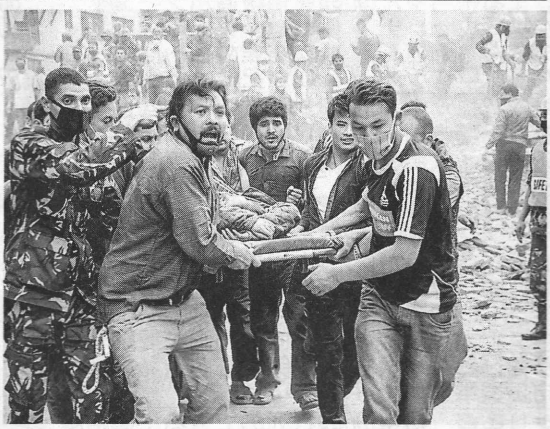
【ニューデリー金子淳】倒壊したビル、ひび割れた道路、病院に殺到する住民――。25日、ネパールを襲ったマグニチュード（M）7・8の巨大地震は住宅や史跡などを破壊し、住民は余震で建物が倒壊するのを恐れ、路上や広場で肩を寄せ合っていた。レンガ造りの古い家屋が大きな被害を受け、日本人も登山中だったヒマラヤ山脈では雪崩も発生した。地方都市の通信網が寸断されており、ネパール当局は情報収集や救助活動に追われている。（1面参照）

「バイクに乗っていたら、突然目の前のビルが崩れ、みんな恐怖で外に飛び出してきた」。首都カトマンズのミン・タパさん（45）は電話取材に大きな揺れに襲われた瞬間の様子を声を震わせながら語った。「3分ほど前にも余震があった。みんな建物の倒壊を恐れて道路にあふれている」という。

カトマンズの日本大使館の職員によると「震度5ぐらいの揺れ」が1分ほど続き、「レンガ造りの家が崩れていた」という。地元記者は「立っていられないほどの揺れだった。こんなに大きな地震は初めてだ」と語った。

インドメディアの映像によると、カトマンズ中心部の寺院が集まる広場では、複数の寺院の屋根が崩壊。道路には数十センチほどの亀裂が入り、路上では負傷者の手当てをする住民の様子が映っていた。ネパール警察の報道担当者はインドメディアに「地方と連絡が取れず、被害の詳細は不明だ」と語った。

カトマンズ中心部の病院には200人以上の負傷者が搬送された。病院職員のダワ・シェルパさんによると、ベッドが足りず、負傷者の一部はマットレスの上で治療を受けている。地震直後から停電が続き、発電機で対応しているという。



25日、強い地震に見舞われたネパールの首都カトマンズで、被災者を担架に乗せ搬送する人たち＝ゲッティ共同

登山ハイシーズン

ネパールの首都カトマンズやヒマラヤ登山の拠点には、多くの日本人が滞在しているとみられ、関係者は安否確認に追われた。関係者によると、ヒマラヤは今の時期、天候も安定し、年間を通じて最も登山者が多い。

旅行会社「アドベンチャーガイズ」（東京都千代田区）によると、同社からは計17人の日本人が登山やベースキャンプ（BC）ツアーでエベレスト周辺にいたが、全員の無事を確認した。負傷者の情報もあるが、詳細は不明という。このツアーにはタレントのなすびさんも参加していた。

同社によると、ガイドとして同行していた近藤謙司社長から衛星電話を通じ、「全員無事」との報告とともに、「BCで大規模な雪崩が発生し、登山隊のテントがつぶされたり、人的な被害が出た」と連絡があったという。

地震が発生した時、アルピニストの野口健さん（41）もヒマラヤ山系にいたが、25日夜に無事が確認された。

ヒマラヤ登山を扱う「ウェック・トレック」（東京都港区）は、登山の拠点として知られるナムチェバザール滞在中の客3人から「かなり揺れたが無事だ」と連絡を受けたという。

外務省海外邦人安全課は午後10時現在「邦人が巻き込まれたという情報は入っていない」としている。仕事での海外赴任などでネパールに滞在する日本人は約1100人だが、短期渡航者の数は把握できないという。

国際協力機構（JICA）によると、同国に約100人の職員や日本人専門家、ボランティアを派遣しており、26日午前0時までに全員の無事が確認された。

一方、国際医療NGO「AMDA」（本部・岡山市）は25日、医療のコーディネーターと看護師の計2人を被災地に派遣すると発表した。26日出発。カトマンズ空港が再開次第、ネパールに入国し、医療支援活動をする。

【佐藤賢二郎、山田泰蔵、瀬谷健介】